

## A-402 飢 餓 死 の 一 例

～絶食後の状態を68日間にわたって記録していた事例～

塩野 寛・藤原 正貴・坂本 善哉

森田 匡彦・内野 勝\*

札幌医科大学法医学教室

\*北海道警察本部刑事調査官

(受付 昭和59年9月10日)

### A Case of Suicide by Fasting

Hiroshi Shiono, Masataka Fujiwara, Yoshiya Sakamoto,  
Masahiko Morita and Masaru Uchino\*

*Department of Legal Medicine, Sapporo Medical College, Sapporo,  
and Police Superintendent Coroner, First Investigation Section,  
Criminal Division, Hokkaido Prefectural Police  
Headquarters, Sapporo\**

We recently experienced a rare case in which a 58-year-old man committed suicide by fasting. He recorded his physical and mental conditions in his notebook during starvation. This record was reported in detail with reviews of the literature.

**Key words:** Suicide, Fasting, Will

#### 要 旨

飢餓死を自ら意図し、絶食後の状態を克明に手帳に記録していた事例に遭遇したので、飢餓死の臨床像、特に神経、精神科領域における諸相を知る上では貴重な資料と考え、その記録を原文のまま紹介し文献的考察を加えた。

#### は じ め に

飢餓死は一般に落盤による坑道の閉鎖、山における遭難、海難などによる船の漂流や、新生児・乳幼児に対する消極的暴力としての食事の非投与、精神神経疾患による拒食症などで生じることが多いが、自殺ないしハンガーストライキによる飢餓死の例はきわめてまれである。

本例は明らかに死ぬことを目的として絶食直後からその後の心身状態を手帳に日記ふう記録し続け、約

70日前後に死亡し、死後3~4カ月で発見されたと推定されるものである。

死に至るまでの状態を克明に記録してある極めて興味ある事例と考えるので、記録を原文のまま記載し、文献的考察を加えて報告する。

#### 事 件 の 概 要

昭和59年1月30日午後2時頃、北海道釧路市の北西約25kmにある湿原内で、うさぎ狩りをしていた人

がビニール張りの小屋の中で人が死亡しているのを発見した。

死体のあったビニール小屋は、付近にある高さ2～3m、直径5～10cmの立木を利用し、間口180cm、奥行き80cmの約畳1枚の広さに高さ120cmの空間を作り、周囲及び天井はゴミ収集用や米などのビニール袋で囲われている（写真1、2）。



写真1. 小屋の外観



写真2. 小屋の内部と死体

死体は、この小屋の地面に、この付近に生えていた「よし」と「わら」を敷いた上で、防寒衣など着衣のまま頭部を西にして発見された。

小屋の中には、細かい木で作られた棚に単行本が並べられ、その下にはまだ水の入ったサイダー、コーラ、ウィスキーなどのビンがあった。

枕元には、昭和58年8月15日絶食開始以後10月22日までの状態をメモした15×9cmの手帳（写真4、5、6）、ナタ、爪切りなどの日用品と、足下には衣類が雑然と放置されていた。



写真3. 死体の外観

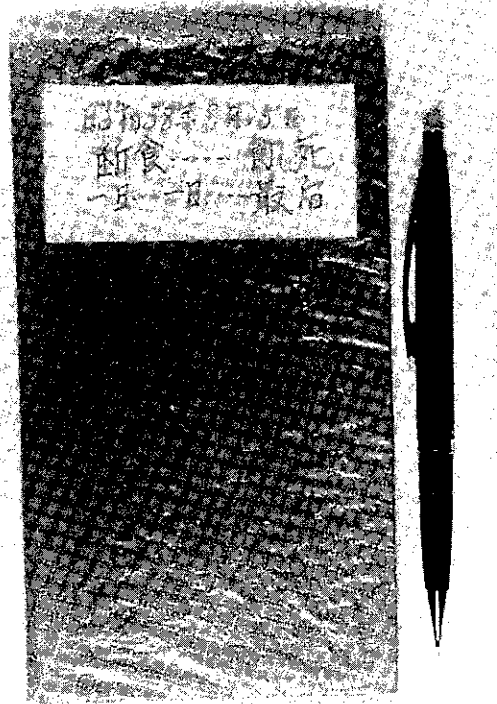


写真4. 手記の手帳の表紙

死体の主な検視所見（担当刑事調査官の検視記録から）

体重30kg（生前体重54kgであるので生前の55.6%）、身長150.5cm、頭囲50cm、胸囲75cm、腹囲56.5cm（写真3）。

頭部：黒色、ほぼ直毛で白毛の混じった頭毛が密生し、長さ約15cm、頭皮は暗褐色を呈している。

顔：皮膚は暗褐色で革皮様となっており、左右眼球組織は硬く乾固して眼窩壁に付着している。鼻、耳は

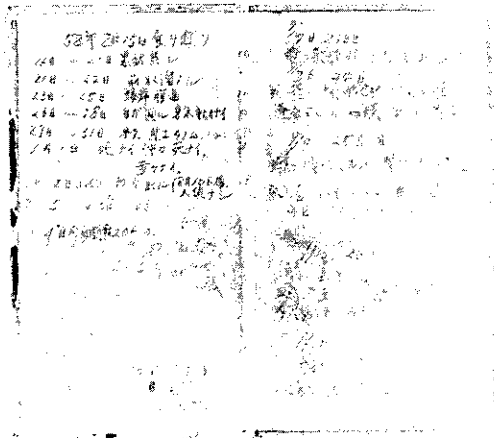


写真5. 手記を記録した手帳の最初のページ

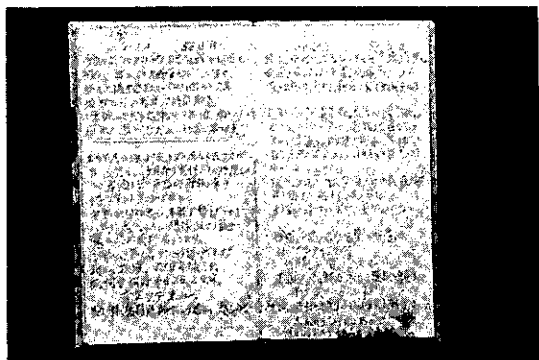


写真6. 手記を記録した手帳

乾固して革皮様である。上下の口唇は暗赤色，乾固し，下口唇には白いカビが付着している。オトガイ部のヒゲの長さ1.8cm。

頸部：暗赤褐色であり喉頭結節と胸鎖乳突筋を皮膚を通して識別できる。

胸部：やや鮮紅色調を呈し，左右肋骨下部が青緑色調を呈している。

腹部：下肋骨から恥骨にかけて極端に陥凹し，汚ない緑色調を呈している。

陰部：肛門：恥骨が突出し，そ径部は陥凹，陰茎は暗赤褐色，陰のうは黒褐色を呈している。肛門には乾固した血便が付着している。

上肢：左右上腕，前腕，手掌面は鮮紅色を呈している。手背は黒褐色である。

下肢：全体に鮮紅色が強い。左足底，右第I趾外側は小動物によって蚕食されている。

背部：全体に強い鮮紅色調である。

その他の所見：左上腕から前腕外側手首までの間に入れ墨「牡丹」「桜」「省ちゃん」，中・環指に「×」，右上腕外側に「め組のまとい」，前腕外側に「桜の花」「男一匹」，左右肩甲部から腰部にかけて「浮世絵（男女交合の図）」がある。

血液型：O型

歯牙：残存する歯牙に治療の痕跡なく，下顎切歯の象牙質が2～3mm幅まで磨耗している。

年齢45～55歳位と推定（10ヵ月後に身元が判明し年齢58歳）。

自殺の動機については不明であるが，昔から放浪癖がある男性で，定職を持たず。妻が病死してからは，家に帰ることなく放浪生活を続けていたものと考えられる。

なおこの地方における気温の変化については表1に示した通りである。

表1. 釧路地方の昭和58年8月から10月までの気温の推移

	平均最高気温	平均最低気温	平均気温
8月	21.3	15.3	18.1
9月	18.0	10.9	14.3
10月	13.2	2.9	8.6

(℃：釧路測候所調べ)

## 死者の手記

昭和58年8月15日

断食………飢死

一日………一日………最后

2年間発見サレナイ。自殺デワ無い。(最後)

58年8月14日ソーセージ1本食ル。断食。

自然死デス。骨ニ成テカラ見ツカル様。願。

年，氏，不詳者

58年8月15日

食ヲ断ツ

16日～20日

累状無シ

21日～22日

雨水溜メル

23日～25日  
頭痛、腹痛  
26～28日  
目が廻ル身体動カナイ  
29日～31日  
早く、迎エタノム。(あの世)  
9月1日  
死ナイ 仲々死ナイ、歩ケナイ、  
9月2日  
小便=血が出る(8月10日後大便ナシ)  
9月3日  
頭暗々、腹引吊ル(小便近シ)  
9月4日  
今日断食 20 日目。  
精神安定。身体痛イ。後1週門ナラ目が廻ル。ラヂ  
オ、電地ガ切レル。働く物、時計、心臓、煙草吸イ  
タイナ  
9月5日  
生キテル  
9月6日  
油汗出ル、足腰動カズ、手ワ動ク。精、セイ 生  
セイ。(楽々)肉体苦痛ナリ。  
9/7日 23日目  
腹ガ張テ来タ死近カ。(1日ガ長イ)  
9/8日 24 目  
死ノ恐怖ナイ。アノ世行ッタラ最初誰ニ逢合ダロウ。  
心臓ワ動イテイル何時止ル  
9/9日 25日目  
時計の電地2年前入替ダ 死デカラ止マレ。(欲)酒  
ーパイ、タバコ1本(望)。今日ワ大分弱テ来タ苦痛  
ダー  
9/10 26日目  
生キテル。以前ワ速風邪引ケバ38度39度熱出ルノ  
ニ不思議ナ事ニ風邪モ引カナイ。  
9/11 27日目  
今日ワ日曜日ノ筈ダナ。心臓ノ停止ボタンドコニ有  
ルノカ。  
9/12 28日目  
寒イ寒イ。身体ガ、スゴク痛イ。何モ食ヌノニ腹ガ  
痛イ。水ガ悪クナッタカ。一ロヅ々三度吞ダケダ。  
目モ弱テキタ。  
9.13 29日目  
寒イ手足ガ冷タイ、血ガ無クヨク雨ガ降ル。雨水溜  
ルト思ガ體ガ働カナイ。長クナイト思  
9.14 断食1ヶ月目(30日)  
手足ノ太サ半分ニ成ル。体重3分ノ2ニ成ツタト思

フ(元)54K 肉体ワ、弱ツテ働カナイ。苦シイ。頭  
ノ動キ変ラズ。何時。死ネルカ予知。予感。全々ナ  
シ。死界カラ迎イ来ナイノワ死界ノ道ガ通行止カ。  
今日ワ風ガ強ク小屋ガ潰レソーダ、

9.15 31日目

飢テ死ヲ持ツワ。道法ガ長過ル誕生カラ今日マデ、  
佛、神、キリスト、他宗教ニ信仰心モッタ事ナシ。  
引取ガ無イノデ、仲々死ナシテクレナイノカ。寒ク  
ナツテ来タ。肉躰ノ弱リ早クナルダロウ

9.16 32日目

今日モ生キテル。寒イ足ガ冷メタイ。手相ノ生命線  
ニ横線ガ何本モ切込ガ入ル。

9.17 33日目

昨夜、寒サ冷エカラ腹痛起シ一眠出来ズ。痛ミ抗シ  
切ズ胃薬ヲ吞ム。考レバ自カラ死ヲ求ル者ガ薬ヲ吞  
ム事ハ変ナ話ダ。今日ワ衰弱ガ進ム。少々熱モ有  
ル用ダ。今晚ワ腹痛ニ苦シマス前ニ胃薬吞デ休ム事  
ニスル。死ニ向ウ者デモ苦痛ワ嫌ダ。

9.18 日曜日 34日目

寒サニ苦シムノハ。予算外ダッタ。日中デ足冷ル。  
新陳代謝ナシ。血液ワ休ナク躰中廻テイル。肉体ノ  
強サ。元ノ生活シテレバ20年生キタロー。(社会ノ道  
マデ)サイクリング道路マデ300m位。歩ケレバ。モ  
ウ一度ド、今更足腰立ヌ。生カラ死。紙一重ノ所ニ  
引越スルノニ時間ガカムル物ダ。生国デ籍ヲ抜テク  
レヅ死国デ入国証明出サヌ。

9.19 35日目

足ノ冷ガ5日続キ足先カラ足首マデ冷ク成ル。昨夜  
モ身体中ノ痛ミ腹痛今マデ1番苦シ。一眠モ出来ナ  
イ。日中ワ重苦サガ残ルダケ。不思議。静カニ死ヲ  
持ツ事。許サレ成イ事ナノカ。今夜ワ寝ル前ニ苦痛  
モ無ク永遠ニ眠ルト祈テ寝ル事ダ。

9.20 36日目

寒サデ目覚メ永遠ニ眠レ無ッタ。苦サ少クナッタ。  
断食36日間トワ余リ長過ル早く安ニ成タイ。長ク苦  
シム様ナ悪イ事シテイナイ。犯罪人デモ前科者デモ  
有リマセン。警察ノ門モ出入シタ事モ無シ。寒イ。  
躰ワ動かカスト。楽ダガ自由ニ働ヌ。モー近イト思フ。  
寒イノニ蚊。ブユ居ル少ナイ血ヲ吸テ行ク。飢テ死  
ニ至ルニ何日位係ルノカ調べテ置ケバヨカッタ。山  
森ニ山菜取ニ入。迷イ。1週間位デ死ンデ居ルノデ、  
簡単ニ死ネルト思ッタ。生キ様トスル肉躰ノ抵抗ガ  
アル。亡滅スレバ肉躰ハ物体ニ変ル事ガ嫌ガル。死  
ノ時間ワ干潮ノ時ダト聞イテ居ル。午前0時前後。  
午後0時前後2回ノ事。ソノ時間ニワ祈ル事ニシヨ  
ウ。

9.21 37日目

腹ノ痛ミ回数ガ減ル。胃袋ノ伸縮活動ガ弱クナッタ。セイダロウ。脳ノ動キモ薄ク成ッタ。文字モ忘レ想出セナイ。今日ワ静カナ雨降ダ氣持良イ。1日ダロウ。後3日デ断食40日モーソロ、ソロト思フ。最後マデ不安モ淋サモ無ク嬉サデ行コウ。

9月22日 断食38日目

昨夜ノ痛ミ苦シサー通りデ、成カッタ。雷ガ近クニ10数回落ち頭ニシビク。躰ノ内外ワ針ニ刺レ通シ、腹ノ中ワ引吊張りノゲキ痛一時ノ仮眠モ取レズ。意識不明ニ成ッテクレト祈ッタ。日中モ苦シミ消ナイ。耐ルノハ限リアル体ニ肉ワ付イテ無イ細イ筋肉ガ付イテ居ルダケダ。肉躰ノ苦サニ精心モ負ケル安楽死ヲ望ム。解ル。

9月23日 39日目 (今日ワ秋分ノ日ダ)

相変ズ苦痛。モウ寸時ノ間ダ我慢シヨウ。空気ト雨水デ此程長ク死ナズニ居ル事ニ驚キダ。昔ノ坊サンモ断食シテ楽ニ大往生シタト聞イテル。信仰心ノオ陰カ。自分モ死ノ間際ニ成ッタガ、信仰ニ一灯ノ心ニ成ル。想バ8月15日盆ノ日ニ死ノ道ヲ歩キ出シ。今日ワ彼岸ノ中ノ日ダ。身内ニモ死者ヲ訳山居ルカラ誰カ今日中ニ迎エニ来テ呉レルカナ。恵心デ持つ。

9月24日 40日目。

到々佛様ワ迎エニ来テ呉レナカッタ。40日間過キテ肉体ノ衰弱ハ下半身全部。言通リニ働テ呉レ無イ。上半身ハ働イテ呉レル。指、手、腕ハ、非常ニ動ダ。頭ハ一廻リ小サク成ッタ。

9月25日 41日目

夜ハ昼ト違ッテ痛ミ苦シミガ余計ニ覚エル。足ノ冷タサ段々上ニ昇ル。血液ノ流レガ悪ク成ッタ為ダ脳ニ送ル血液ガ不足スレバ眼ノ前ガ暗ク成リ意識不明ト成リ一完ノ終リ。ダガ心臓バ暫ラク動キ続ケ止マル事ニ成ル。今日ノ日曜日ワ雨降ダ。サイクリング道路ニ人声無ク。静ナ時ニ此ノ世ニ別レガ出来レバ幸恵 1日ノ飲料水ハ、120~150<sup>cc</sup>位ダ。小便ハ30~40<sup>cc</sup>位ダ。

9月26日 月曜日 42日目

毎日朝カラ晩マデ死ヌ事バカリ考ヘデ苦勞シ。不安感ノ嫌ノ日中ダダ。昨夜、良ク考エテ見レバ、8月15日断食ノ日ニ死ンデ居ル事ダト思変レバ、楽ナ氣持ニ成リ。平安ノ心。生ハ1%残ッテ居ナイ筈ダ。

9月27日(火) 43日目

1%残テ居ル生命ニ相想以上ノ苦シミガ昨晚朝マデ続ク其ノハ寒サダ。体ヲ丸ク仕様ニモ自由ニ動カヌ体、足先カラ腰マデ冷水ヲ掛ケタ様ニ成リ耐エラレズ、意識ガ薄ク成ッタ。覚エガ何回カ。(体温36度以

下ニ成ッタ筈。)徐々ニ徐々ニト衰弱シ瘦テ枯レテ離途スル事ヲ願ダケ。寿命、運命ノ支配ニ従イ。(祈。)

9月28日(水) 44日目

寒い本当ニ寒い一夜ガ明ケタ。生キテル。植木ノ様ニ水ダケデ44日死ナズニ居ル。雨水ヲ溜メタ古ク成ッタ飲料水ダ。呑ムト云ヨリ舐メル様ニ回数多ク取ル事ニシタ。早タ死ヲ求ル者ガ考ルノガ変ダガ1日、2回整腸剤。正露丸ヲ服用シテ来タ。モン下痢ヲ、シテ足腰躰モ動カナイデ。躰中大便ノ汚レデ死ンデル姿ヲ考ルト嫌ニ成ルカラダ。明日デ断食1ヶ月半45日ニナル。一ツノ区切刻デ今日明日ニ期待ノ訪ノ片道切符ノ配送ガ、アルカモ知レヌ。祈ッテ休ム事ニスル。

9月29日(木) 45日目

切符ノ配送ワ無ツタ。夜半カラ非常ニ強イ寒波ガ来タ。此ノ地ハ湿地帯故。他地ヨリ気温ガ二、三度低イ筈。0度ニ近カッタト思フ。震々ト身ガ冷エテ、除々ニ体温下ルノガ判ル。此分デワ飢死デ無ク直接ノ死因ハ(寒)(凍)死ノ様ダ。飢ノ苦ミヲ降服シテ後、1歩ト云ウ所ニ来タノニ、今度寒サニ耐テ、待ツ事。(死ニ至ル道遠シ)妙ニ今日ハ雜想、雜念ガ浮デ消エル日ダ。想出シテ見レバ好イ想イハ3才、4才、ノ時ニ楽ク笑ツタ事ガ、アル様ニ外ニ。??……。少年期、青年期、現代マデ、世間、他人ノ土台、基礎ニ成リ働イテ来タ。自己ノ我ヲ通スノハ、感情的ノ事ダケ。利害ニハ関係ノナイ、間拔ナー生ダッタ。

9月30日(金) 46日目

前夜ハ寒サト云ウヨリ凍レルト云ン方ガ当ル。数10本ノ針ガ躰中ニ刺ル様ナ寒痛、体ハ動かカズ暖ノ取ル方法ガアル筈モナシ。1夜ノ明ルノガ長々感ジタ事ハナイ。寒冷ハ段々強クナルシ前途暗ク。㊦。毎晩ノ苦シミワ足腰ニ冷ガ昇ッテ来ルト、心臓ノ働キガ活発ニ成リ脈ガ早ク打チ体温ヲ上ゲョートスルガ。気車ガ登坂ヲ昇ル時大量ノ石炭ヲ喰テモ圧力ガ下ガル。同シ事ニ体温モ除々ニ下リ背筋ニ悪寒ガ走り下リ、頭ノ芯ニ隙間風ガ吹抜タ様ニ成リ、后ハガタ、ガタ、振エテ朝ヲ待ツダケ。肉体ノ弱リガ解ル、疲レル、疲レル。北海道語デ。アーコワイ、コワイ。

10月1日(土) 47日目

到、到、10月ニ入ッテ仕舞ツタ。快物人間ノ用ダ。長期ニ渡リ生キテ居ルトハ誰モ信ジナイ事ダロー。昨夜ハ寒氣ガ若干弱タ楽ニ過セタ。夜ノ長イノワ、嫌ニ成ルガ日中ハ時間ノ立ツノガ短カク感ジル。ウツラ。ウツラ、居眠リシタリ夢ヲ見タリ。夜ハ夢ヲ見ナイ。夢モ喰物ガ出テクルト草々ニ消セネバ腹痛ヲ起ス。反逆神經ノ作用デ胃袋ヲ動かカス為ニ起キル



3寒, 4温ト云ウ言葉ハ今季ハ当ニナラナイ様ダ,  
今晚モ覚悟スル, 正直ノ所, 躰ガ敗ケテ呉レ, (願)  
早ク楽クニ成ル事ガ, 現午後3時早クモ寒気身ニシ  
ミル, (凍死)朝マデ持ツカ, 5, 6, 日デ2ヶ月ニ  
成ル, 何日間生キテイタ人が最高カナ,

10月9日(日) 55日目

泣事ハ止メタ, 地下湿原ノ冷氣背中ニ浴ビ一晚中震  
エテ耐忍ブ, (生キテ居ル)冷蔵庫ニ入ツテル木乃伊  
ノ様ダ, 今日ワ雨降ダ1日中降続ク事ト思フ, 薄暗  
ク肌寒イ, 眠ル事モ出来ナイ, 気力全然ナシ, 悪寒,  
頭痛, 風邪引キノ様子ダ, 行先, 終着ガ判ツテ居ル  
鈍行列車ニ乗込ミ各駅停止(1日1回)モ55回モ停  
止シタ, 同シ所ニ何回モ止ツタ様ダ, 此コニ停ルト  
苦シミ痛ミガ覚エル, 考ガエレバ地獄環循線ダ, 後  
何回, 廻レバ終着駅ニ, (唯苛立ツ)

10月10日(月) 56日目

温暖ノ夜ダ風邪モ進行セズ熱モ上ラナイ, 何時ヨリ  
腹痛ガ強イ, 明方ガ来タ, 生キテ居ル(喜ブ心ニ)  
成リ難シ, 目, 耳, 気, 怠ヘテ思考力ナシ, 肉躰ワ  
芋虫同様ゴロゴロ, 状態成リ,

10月11日(火) 57日目

生キテル, 辛イ, 怠イ, 疲レ, 乱, 今日モ天候ガ悪  
イ1日ニ成ル様ダ, 右カラ左除除ニ動カシ躰ノ痛ミ  
ヲ助ケテル姿見ルニ耐エヌ, 死ヌ事ハ自己ノ自由ニ  
ナラナイ事ト知ツタ, 苦シイ1日ガ始ル, 日中思イ  
モシナイ天気ニ成リ, 暖温, 見レバ見ル程見苦シイ,  
髑髏ト心臓ダケガ生キテ居ル様ダ,

10月12日(水) 58日目

寒カッタ, 生キテル, 仲々生カラ釈放ノ気配ナシ,  
直接ノ死ノ導キワ心臓麻痺, 脳貧血, 凍死カ,

10月13日(木) 59日目

昨夜モ寒ク苦シク悲鳴ノ声ヲ出シタ事ノ様ダ, 午前  
11時ニ成ルニ体温ワ少シモ上ガラツ胸ニ圧迫感有  
リ, 悪感, 悪心, 気分特別ニ悪ク体中ニ震エガ時々  
起キル今日ガ最后ニ成ル様ナ眠前ガ薄暗イ, 寒イ

10月14日(金) 60日目

断食60日ニ到ツテ仕舞イ, 頭痛, 胸ガ苦シイ, ハキ  
気ガスル, 全身カラ何可ヲ全部抜カレタ容ダ, 脱力,  
寒気, ハキ気, 目マイ, 苦シイ……

10月15日(土) 61日目

タダ苦シイ

10月16日(日) 62日目

生死行タリ来タリ唯々苦シイ

10月17日(月) 63日目

苦シイ

10月18日 64日目

生キテル

10月18日～22日  
識半鈍以后記セツ

(赤いビニールテープの上に書かれてあった)

## 考 案

日本では, 仏教のある宗派に, 断食の行があり, こ  
れを続けて死に至る成仏の行が存在する. すなわち仏  
教の真言宗には, 五穀断ち, 十穀断ちなど長い期間  
(2000~3000日)を経て体内の脂肪分, 栄養を徐々に  
減少させ, 最後には断食すなわち絶食によって死にい  
たる, 即身仏となるための行がある. その代表例が山  
形県出羽地方湯殿山系観音寺の仏海上人であり, 1903  
年(明治36年)にこの行により即身仏となったが1961  
年に発掘調査が行われている. ミイラ化のためのひと  
つの方法であるが, 日本ではエジプトとちがい内臓を  
死後に抜きとることはない. すなわち餓死自殺をして  
ミイラ化し即身仏となる行である.

しかし一般に飢餓死は, 事故や乳幼児に対する消極  
的暴力, 精神疾患による食事拒否, 時には非医師によ  
る断食療法<sup>1)</sup>などによって生じる場合がある.

飢餓死には, 水も食物もとらない完全飢餓死と水だ  
け摂取する不完全飢餓とがある. 本事例は後者に属す  
る.

飢餓によって死亡するまでの日数は, 成人では完全  
飢餓の場合には1~2週間, 水を摂取すると約1ヵ月と  
いわれている<sup>2,3)</sup>. 本事例は少なくとも2ヵ月間生存し  
ていたことが記録から明らかである. 飢餓死の死体所  
見はよく知られているところであるが, 死に至るまで  
の経過, 特に心理面については不明である. 今回, 自  
ら飢餓死を意図し, その経過中のことを克明に記録し  
たものが残されていたことにより, 死に至る過程をよ  
く知ることができた.

何川<sup>2)</sup>によると初め感じた飢餓感は2~3日で次第  
になくなり, その後胃の圧迫感, 頭痛, 全身倦怠感,  
口臭などがおこり, 体重が減少するという. 便秘は当  
然としても次第に衰弱がひどくなり, 眠りがちとなり,  
譫妄, 幻覚が起こって最後は昏睡状態に陥り, 死亡す  
るという.

本事例をみると飢餓感, 頭痛(9~11日目)の外に寒  
さを感じていることが多い. これは飢餓によるものか  
北海道の気温によるものか判断できないが, 興味のある  
ところである. 30日目で手足の太さは半分, 体重は

2/3になったと記録している。30日前後より胃痛、腹痛を訴えているが、40日目でも上肢を動かすことができたようである。51日目でも小便は出ているが血尿のようである。60日目で頭痛、悪心、胸が苦しいと記載し、64日目までは記録を続けたが64日目から68日目まではかろうじて赤のビニールテープの上に記録して終わっている。この後数日以内に死亡したものと推定される。

一般人が、容易には実行し得ない事態の記録であるが、飢餓死の臨床経過、心理状態を知る上で貴重な記録と考えて報告した。

謝辞：手記の転写をしていただいた木村寛子さんに感謝します。

註) 手記の文中でアンダーラインの部分は誤字、誤用をしていた文字である。

#### 文 献

- 1) 入澤淑人, 古野潤治: 飢餓死の一例, 犯罪学雑誌, 49, 51-54, 1983
- 2) 何川 涼: 法医学, 132-133, 日本医事新報社, 東京, 1977
- 3) 錫谷 徹: 法医診断学, 241, 南江堂, 1972